

令和5～6年度 施設提案型モデル事業 「最終報告書」

施設名 わかばこども園

【取り組みのテーマ】

「乳児期からの関わりと異年齢児保育」を大切にした保育の中で目指す子ども像に向けて教育・保育をより高めていく

【2年間の主な取り組み内容】

「本園が実施する教育・保育の在り方を再度見つめ、目指す子ども像に向かって質を高める」「子どもにとってより適切な環境について考え、気づきや課題を共有し、構成する」
以上をねらいに以下の二つの取り組みを行った。

- ①園内勉強会での動画視聴と考察
- ②“自園の目指す保育とは…”をテーマに保育実践のスライドの作成

【令和5年度活動内容・経過及び気づきや学び】

- ・担当クラスとテーマを事前に割り振り保育の中で動画を撮影。月に一度の勉強会に撮影したものを視聴し、経験年数、担当クラスに隔たりなくランダムなグループに分かれて考察を行った。テーマは教育要領の「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から毎回一つ選んで行った。

(例) テーマ「言葉による伝え合い」

各クラスからの動画

- 01歳児 「ままごとゾーンのドリンクバー」
- 2歳児 「ままごとゾーンでのドライブスルー」
- 345歳児 「園庭のバナナ鬼」



○実施していく中で問題点の浮上・改善方法

問題点1

動画視聴後、話し合いの視点がしばられていなかったことから、様々な意見が出て話がまとまらないまま終わっていた。

⇒改善方法

意見交換の際にグループに配布し記録をする用紙に、毎回テーマとテーマについての詳しい補足、自園の保育目標、話し合う具体的な内容について記した。(別紙参照) また、話し合いの視点にずれがないか後日担当で確認し、次回の話し合いに活かすようにした。

問題点2

勉強会の限られた時間の中で複数個の動画視聴を行っており、それぞれの動画の考察に十分な時間をかけられない状況があった。

⇒改善方法

使用する動画を一つに限定し、じっくり話し合える時間を設け”子どもが何を学ぼうとしているか””環境はどうであったか””話し合いの結果感じたことと学んだこと”について意見交換を行うようにした。

問題点3

動画の状況や対象児についての質問が多く、動画理解に時間がかかった。

⇒改善方法

動画視聴前後に予め動画撮影者が必要な補足説明を行うことにした。

良かった点

→複数チームで話し合いが進められているため時間に余裕を持って話し合いを進めることで、最後にチームで話し合った内容をお互いに発表し、より多くの視点に気づくことができた。

→自分の担当クラスの保育動画を改めて視聴し、他クラスから意見をもらうことで保育の改善につながった。

(例)・3歳以上児で行っているセミバイキング方式の給食の配膳時、盛り付けの量の聞く保育教諭の聞き方が「いっぱい？少し？」と極端であることに気づき「いっぱい？ふつう？少し？」と聞き方を変更することができた。

・0歳児クラスの玩具棚の玩具の置き方について議論し、より発達を促すものに変えることができた。

【令和5年度の気づき、学び】

月に一度の園内勉強会の時間を使用し、保育の中で事前に撮影した動画をクラスの垣根を越えて視聴・考察することが出来た。お互いに保育を見合う経験から自園の目指す保育について普段から意識し、確認し合うことができた。職員の経験年数に関わらず動画を撮影し考察する中で子どもの行動一つひとつに意味を考えられる良い機会となり、環境の大切さに気付くと共に自分たちの保育の在り方を再度見つめるきっかけとなった。子どもにとってより適切な環境について考え、他クラスの職員からも意見をもらいながら気づきを共有し保育環境の充実につながることができた。

【令和6年度活動内容と結果】

令和5年度からの動画研修を通して、職員全体で自園の保育や環境について改めて考えを深め、自園が目指す乳児期からの関わりと異年齢児保育を追求していく中で、自園の環境や取り組みを外部の方に知って頂く機会を持つことで自園の教育保育についてさらに学びが深まると考えた。そこで、実際の保育環境や実践をまとめ、一目で解りやすく紹介できるようなスライド作成を行うこととした。

スライドの作成は引き続き勉強会で自園らしい環境を通した育ちや子ども同士の関わりの動画をクラスごとに集め、勉強会で視聴と考察をし、後日担当で構成を行った。

動画視聴と考察を通して、動画は意図が伝わりやすい反面、情報量も増えるという側面が意見として挙げられた。それらは保育を伝える際の注意点でもあることを知り、学びにもつながった。また、昨年度に引き続き各クラスが集めた動画を共有することで、職員それぞれが自身の担当クラスだけでなく0～6歳までの連続した発達を感じることができ、前年度の育ちや次年度の姿を見越した担当クラスの動きを意識することにつながった。



【公開保育について】

公開保育では参加してくださった方々に実際の保育環境や保育を見て頂き、担当者以外の職員も説明をする機会に恵まれ、自分たちの保育をアウトプットする良い体験となった。午後の保育の詳しい説明や保育実践動画を用いたグループワークからは参加して下さった方々の感想をたくさん頂くことができた。後日それらを職員全体で共有させていただき、担当以外の職員の刺激やモチベーションアップにも繋がる結果となった。



公開保育後頂いた感想

- ・一つひとつの環境に細かい設定、思い、願いが込められているのが見て分かる。
- ・先生が決めるのではなく、自分で考え、決める、ということを大切にしていることが分かった。
- ・ゾーン分けしてあることで、遊ぶ場、食べる場、眠る場が分かりやすくなっている。
- ・食事の後の片付けなど、0、1歳児の秋の時期で自分で身の回りのことをしているのがすごいと感じた。自園でも取り入れていきたい。
- ・0歳児の発達に合わせた玩具の棚の設定は参考になった。実践してみたい。
- ・全員での一斉活動がなく、全員での活動そのものがないためこのような保育形態が新鮮だった。
- ・食事の時間も自分たちで選択できるとなっているが、基本ルールがしっかりしているからこそ子どもたちで進めていくことができるのだと思った。異年齢だからこそ引継ぎもできると感じた。
- ・職員が皆、同じ方向を向いて保育していることが随所に感じられる。子どもにとって今何が必要なのか、次の年度のために何が必要なのか、次にちゃんと引き継がれている。

【所感】

一年目の勉強会で行った動画研修から、丁寧に子どもの姿を追い、意見交換を行う中で、普段保育の中で見過ごしがちな子どもの行動や関わりも一つひとつのことに意味があると改めて気づいた。そこから多くの職員が環境の大切さを感じることができた。保育の中で何気なく行われていることにも大きな意味があることを職員全体で確認することができた。またそれぞれの保育教諭によって視点は様々で、チームで子どもを見守り、普段から職員間のコミュニケーションを活発に行い意見交換することの意味を強く感じた。そして良いチームの雰囲気作りの重要性を感じた。

公開保育からは保育を見てもらうことや見てもらい意識することの大切さを感じた。普段なかなかできることではない貴重な体験であった。参加して下さった方々も様々な良い保育を目指される中で具体的に的を絞って反応、感想を下さり共感して頂けることで発表者としても自園の保育に自信を持つことができた。保育を発信することでより現場の取り組みがクローズアップされ、発表者以外の職員のモチベーションの向上にもつながった。乳児期からの関わりと異年齢児保育を大切にしている自園では、赤ちゃんが大きな集団で過ごすメリットや3歳以上児が年齢にとらわれずに関わり合う良さを感じて頂いただき大変嬉しかった。

二年間のモデル事業を経て、様々な学びと収穫があり、その取り組みは大きな影響を保育環境にも齎した。職員そろっての話し合いの時間の確保、ねらいの継続は難しいものではあったが、保育から離れた場所で子どもについて保育について語り合い学び合うことはとても有意義で充実した時間となった。日々忙しい保育の現場でお互いを知り合うという点でもチームワークを高め良い時間となったと感じる。二年間事業を支え、ご準備ご指導くださった富樫教育プラザの職員の方々に感謝致します。ありがとうございました。